

人間文化研究機構グローバル地域研究推進事業
東ユーラシア研究プロジェクト（EES）2023年度全体集会開催報告

2024年1月20日に、神戸大学鶴甲第1キャンパスで人間文化研究機構グローバル地域研究推進事業東ユーラシア研究プロジェクト（EES）2023年度全体集会を開催した。会議では、東ユーラシア研究プロジェクト全体および各拠点の目的と計画・成果について情報共有・意見交換を行い、今後の相互交流や成果発信のあり方について議論を行った。

全体集会は、(1) 基調講演、(2) セッション1 EES神戸大学拠点パネル、(3) セッション2 拠点間パネルの3つのプログラムにより実施した。

(1) 基調講演では、EES神戸大学国際文化学研究推進インスティテュート拠点長、神戸大学の岡田浩樹が「東アジアからみる少子高齢化—21世紀の「ウェルビーイング」を考える」というテーマで報告を行い、EES神戸大拠点が「少子高齢化とその葛藤」の問題を中心に、東ユーラシア地域、特に東アジア諸社会における社会経済変動と、それが域内外に与える諸現象について総合的かつ包括的に研究を進めていくことを述べた。またその際に、少子高齢化を単なる社会問題（直裁的な現象）としての側面にのみ注目するのではなく、人文学の各分野において、この現象が何を意味するのか、具体的トピックを手がかりに接近する必要があることを指摘した。

(2) セッション1「EES神戸大学拠点パネル」では、EES神戸大拠点がコアテーマとともに取り組む5つの個別テーマの目的と計画を、コーディネーターを務める武庫川女子大学の野上恵美（住まいとライフスタイル）、立命館大学の澤野美智子（身体、感覚と他者性）、立命館大学の小川さやか（テクノロジーとモビリティの拡張による距離と境界の再構築—空間・身体・イデオロギー）、南山大学の宮脇千絵（なりわいとグローバル経済）、県立広島大学の上水流久彦（人口減社会における越境・家族・国家）が説明し、今後の展望や拠点間交流の可能性について議論した。

(3) セッション2「災害・紛争がもたらすコンフリクトとウェルビーイング」では、東北大拠点のボレー・ペンメレン・セバスチャン（東北大）が「災害時における障害者の脆弱性の研究」、民博拠点の櫻間瑞希（中央学院大学）が「戦争、移動、変容—中央アジアで「タタールになる」人々の語りの事例から」、北大拠点の小川玲子（千葉大学）が「アフガニスタン人が難民になるまで」というテーマで報告し、神戸大拠点の今村真央（山形大学）がコメントを行った。本セッションでは、戦争や災害の影響を直接的に被った難民と被災者が置かれた困難の諸相に光を当て、当事者たちの声の聞き取り調査を通して見えてくる諸問題を通して、難民と被災者のウェルビーイングを確保するにあたって何が課題であり、何が必要とされているのかを検討した。

全体集会には、45名が参加し、翌日の若手研究者集会とあわせて二日間にわたり活発な議論がなされた。会議では、神戸大学拠点のコアテーマと5つの個別テーマに並行して取り組むプロジェクトの方向性を確認するとともに、「コンフリクトとウェルビーイング」をめぐる課題を通して、各拠点が協働して研究に取り組む可能性が示された。